

生涯学習課 NEWSLETTER



福島県文化スポーツ局 生涯学習課

TEL 024 - 521 - 7404

fax 024 - 521 - 5677

E-mail shougaigakushuu@pref.fukushima.lg.jp

NO,9 R2,9,8

ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行するものです。

また、皆様方からも、日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構ですので、多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

「町民同士」「町民と町」の絆を継続支援するために

東日本大震災・原子力災害の影響により、双葉町は現在も県内外への避難が続いている。今回、取材をしてきた「双葉町復興支援員(ふたさぼ)」は、そんな町民の皆さんを支援するために活動している。双葉町からの情報を少しでも多くの町民に伝えるために、「町民同士」、「町民と町」の絆を大切にしながら取り組んでいる。

その活動を、復興支援員西元さん、双葉町から委託を受けているONE 福島菟部さんに話を伺った。



町民のニーズに沿った

広報を目指して

震災から十年目を迎えた双葉町では、復興へ向けて様々なことが動き出している。「ふたさぼ」では、町の「復興計画」に基づき、帰町を考える町民のために町民に寄り添った広報を行いたいと取り組んでいる。菟部さんと西元さんは、

「町からの広報を一方的に伝えるだけでは、町民のニーズに寄り添うことはできないと考えています。」
「県内外の町民の様子や取組を広報すること、町民との話を町に伝え

ることも大切なことです。」
と、町にフィードバックする重要さを指摘する。



町民の交流会取材

双葉町コミュニティ情報紙

「ふたさぼのわ」

「ふたさぼ」の広報活動支援は、双葉町に関する映像制作やコミュニティ情報紙の制作、町ブログ発信など多岐にわたる。その中で、月に一度発行しているコミュニティ情報紙「ふたさぼのわ」では、双葉町の情報だけではなく、県内外に住む双葉町民の現在を取材したり、町民から写真を投稿してもらい掲載している。

今年四、五月号では、「桜特集」として、双葉町内の桜や町外、県外に避難されている皆さんの地域に咲いている桜を掲載した。新型コロナウイルスの影響で直接取材に伺うことができないが、町から配付されているタブレットを使い、町民の皆さんや町芸術文化連絡協議会写真部の協力を得て、コメント付きの桜の画像を送ってもらった。特に今年、は、

自粛要請もあり、花見もままならない状況だったが、このコミュニティ情報紙が一つの媒介になり、町民同

士を有機的に結びつけるのに大きな役割を果たしたと「ふたさぼ」メンバーは胸を張る。



ふたさぼのわ79

双葉町の復興を

見据えた支援へ！

「復興のために、これからのまちづくりに取り組む双葉町を支援することが大切なんです」と西元さんと菟部さんは口をそろえて言う。

まちづくりを進める双葉町にとって、若い世代のコミュニティ支援も大切だと考え、三月に県内外で生活する町民を対象とした町民交流ワークショップを企画した。新型コロナウイルスの影響で、中止になってしまいましたが、子育て世代の町民へのコミュニティ支援にこれからも取り組む。

また、町が復興していくためには、伝統の継承も大切だと考え、神楽などの芸能の保存支援も行う。実際の舞の様子に加え、衣装の着付けなど、映像で保存している。



双葉町伝統芸能
保存 DVD

心豊かな生きがいの 探求を目標に！

「福島市マスターズクラブ」

福島マスターズクラブは、中高年代の交流を深めながら、高齢化社会に貢献できる仲間づくりを指しているクラブである。

現在九十一名の会員が所属しており、立ち上げから二十一年目を迎えている。一年を通して、知性を高め情操を養う学習活動や、さわやかな健康づくり活動などを行っている。

現在代表を務める上村悠さん、副代表の大宮京子さん、運営委員の三瓶勝義さんから話を伺った。



肩肘張らずに参加できる クラブを目指して

平成十一年度に生涯学習事業として、還暦を迎えた市民対象の講演会を福島市が開催した。それが「マスターズ大学」である。参加した受講生は、この講演会がきっかけとなり、還暦を迎えた以降も生涯学習を実践することの重要性を認識することになった。このマスターズ大学を受講

した二期生が中心となり、こういった教養や知識を身につける機会をこれからも継続していくことができないかと考えたことが「福島市マスターズクラブ」の始まりである。

「まずは有志が集まり、普段着な雰囲気が始まった。これまで様々な工夫を凝らしながら活動を続けていくことができた。また、様々な方々からの協力の下、少しずつ積み重ねてきたことにより現在のようない計画的な活動につなげることができている。」と運営委員の三瓶さんは語ってくれた。

現在代表を務める上村代表は、「普段着な雰囲気の中にも最低限のルールを設け、会員が会話をしながら自由に集まることのできるようにしている。楽しみながら活動することが継続につながることもなんです。」と、継続していくことの大切さと、工夫している点を教えてくれた。



令和元年度教養学習
「一泊研修・交流の旅」

新しい課題に挑戦する意欲と好奇心を持つて

今年度の事業計画では、四月に開催を予定していた総会を皮切りに六回の教養学習、三回の健康づくり活動、三回の懇親・交流事業を計画している。

昨年度末に市民を対象としている教養学習事業「マスターズ塾」(マスターズクラブ主催)を開催した。福島保健所所長を講師に招き、「中核市福島市保健所について」と題し、他県から見た福島市の健康についての講演会を開催した。また、その時期は新型コロナウイルス感染症が広がりを見せていたので、急遽講演内容を「新型コロナウイルスについて」を追加した。参加者は、新型コロナウイルス感染症の情報や、防ぐための知識と方法を学ぶことができた。今年度の活動は、新型コロナウイルスの影響を受け、総会を始め、七月までの事業が中止となってしまうが、八月から再開した懇親・交流事業では、「暑気払いと古関裕而の街、まちなか歩き」を開催した。



第54回マスターズ塾
「福島市保健所について」

「学ぶ大切さ」は生涯 学習を推進すること

「福島市マスターズクラブ」では、平均寿命が延びてきている現在は、生涯学習を推進していくことが大切だと考えている。そのために、代表を中心とした運営委員会を行い、現在のニーズに合う事業を考え、企画や運営に取り組んでいる。

「会員さんのニーズに沿った活動を肩肘張らずに継続していくことが大切なんです。」

と副代表の大宮さんも語る。現在開館している「古関裕而まちなか青春館」では、入館者に当時の福島市街の様子を説明するためにボランティアが活動している。このボランティアには「福島市マスターズクラブ」の会員も参加し、活動している。これまで、教養学習やマスターズ塾で学んだことを生かして来館者に解説している。これまで学んだ成果を発表する貴重な機会である。



第51回マスターズ塾
「古関裕而の全て」

